凡　事　徹　底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和２年度
第８号（１２月号）

二中生、大舞台でも大活躍！

校長　小山　晃弘

１１月号で、新人戦県大会での二中生の活躍を紹介したところでしたが、参加全試合終了しましたので、紹介させていただきます。

まず、男子卓球部は団体戦準決勝まで勝ち進み、惜しくも敗れてしまいましたが第３位と大健闘してくれました。また、熊谷ドームで行われた男子ソフトテニス部は、１回戦２回線と勝ち進み、準々決勝で敗れてしまいましたが、ベスト８と同じく大健闘してくれました。そして、柔道男子個人戦、斉藤勇真さんが第３位、柔道女子個人戦、斉藤真優さんが第２位と、立派に戦ってくれました。

また、吹奏楽部が県アンサンブルコンテスト南部地区大会の菅打楽器八重奏で銅賞に輝きました。県大会などの大舞台でも、二中生が活躍してくれる姿を、頼もしく感じます。

先日の表彰集会では、１１月号でふれた、スポーツ選手の名言について話をしました。サッカーの本田圭佑選手の、「勝負を決めるのは準備。なかでも気持ちの準備以上のものはないと思う。」から、私の勝手な解釈ではありますが、道具の手入れや管理、体力面や技術面は何ヶ月もかけて積み重ねていくものだけれども、気持ちも同じように育てていくものだと。加えて、気持ちの準備は直前まで、また、試合の途中だってできるという話をしました。実際に、顧問の先生方が試合中に生徒たちにかける言葉も、プレーがどうというよりは、気持ちを落ち着かせたり、逆に奮い立たせたりするような声掛けが多かったと思います。

少し前になりますが、「Ｎｕｍｂｅｒ（９月１７日号）」に次のような記事が載っていました。「（一部抜粋）新聞用の対談として卓球場での張本智和との初々しい時間を終えた時、１学年下の日本代表選手は、『藤井さん、ちょっといかがですか』とラケットを渡した。驚かせようとする東京五輪金メダル候補のサーブに藤井のフォアハンドストロークは何度も空を切ったが、１０球ほど繰り返していくと信じ難い光景が展開されるようになった。鋭角というより、ほぼ直角に変化するサーブに対応し始め、やがてレシーブは張本側のプレーイングサーフェスに返るようになった。　～中略～　生来の負けず嫌いだけではないと思った。目の前に現れた課題に対し、最善の成果を得るために考え、工夫したからだと思えた。」この「藤井さん」というのは、皆さんもよく知っている、将棋の藤井聡太二冠（王位･棋聖）です。卓球と将棋という全く違うものであっても、自分には無理だと考えずに、どうすれば打ち返すことができるのかと、諦めずに向き合って、考えた末のプレーだったと思います。気持ちでたどり着いた結果だったのではないでしょうか

「気持ちの準備」、部活動だけではなく、学習面や生活面など色々な面でも必要だと思います。３年生は既に終わっていますが、１・２年生は１２月３日から期末テストが行われます。学習の準備と併せて気持ちの準備もしっかりとし、当日は焦らず自信をもって取り組めるよう頑張ってください。

【二中Ｂａｓｉｃ　＋　アルファ】

「密閉・密集・密接」の三密を避け、「大声を出さない（会話は適度なボリュームで）」を心掛けながら、学校生活を送ろう。

《学校教育目標》
自ら学び、深く考える生徒　（知）
心豊かで、思いやりのある生徒　（徳）
たくましく、健やかな生徒　（体）

蕨市立第二中学校
電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp